

海外生活 エッセー

ロンドン事務所

海外赴任で気付いたライフスタイルの違い

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所 所長補佐 細井 成美 (徳島県派遣)

英国で暮らし始めて約2年、さまざまな場面で日本との違いに驚く日々が続いています。現地で暮らして気付いた英国ロンドンの様子をご紹介します。

→ 働き方の違い

現地では日本以上に在宅勤務が積極的に行われているように感じます。クリアロンドン事務所は官庁街の近くに位置していますが、月曜日と金曜日に通勤していると、曜日を間違えているのかと不安になるくらい通勤している人が少なく驚きます。通勤途中にスマホで曜日を再確認したこともあるほど月曜日と金曜日の朝のロンドンは静かで、道を歩いていてすれ違うのは犬の散歩やランニングをしている人たちばかりです。職員研修の一環として



クリアロンドン事務所が入るビル

英国内の自治体を訪問する機会が何度かありましたが、やはり役所内も在宅勤務をしている人が多く、職場に出勤する人が少ないため閑散としている印象を受けました。一般企業では在宅勤務ができる職場環境が整っていないと求人の人が集まらないという話も聞いたことがあります。

→ 休日の過ごし方

テレビや駅などでは海外旅行を勧める広告をよく見かけ、海や山といった自然の中でアクティビティーを楽しんだり、ゆっくり過ごすプランが紹介されています。現地の人に話を伺っても、休みといえばビーチに出かけて日光浴をしたり、読書をしたりして過ごすイメージがあるとおっしゃっていました。日本人の旅行といえば、観光名所をできる限り周り、いかに内容を濃く充実させら

れるかに力を入れていているように思い、旅行のイメージが正反対なことに驚きました。



公園で日光浴をする人々

か考えてみる。と、休みの取りやすさが異なる点に理由があるように思います。日本では連続した休みはなかなか取りづらい印象がありますが、欧州ではまとまった期間の夏休みがあるので、長期のお休みを取るの当たり前という印象があります。2024年の3月に「フィンランドのワークライフバランス」をテーマにフィンランド大使館の堀内都喜子様にご講演いただいた際には、フィンランドで働く人々は、夏には最低でも2週間以上のまとまった休みを取っているというお話をお伺いしました。

日本と比べると、英国では、休む権利があるのだからしっかり使うのが当たり前だという意識を感じます。海外の当たり前に触れることで自分が当たり前だと思っていた考え方に疑問を感じる場面があり、客観的に日本の慣習などを見ることができるようになったのは海外勤務を通じてでなければ得られなかった感覚だと感じています。

→ さいごに

日本では若者が就職先を決める際にワークライフバランスを実現できるかという点に重点を置いているというニュースを見かけます。この動向は、若者の働き方に対する意識の変化を示しており、今後ますますワークライフバランスが重視される社会になるのだろうと思います。